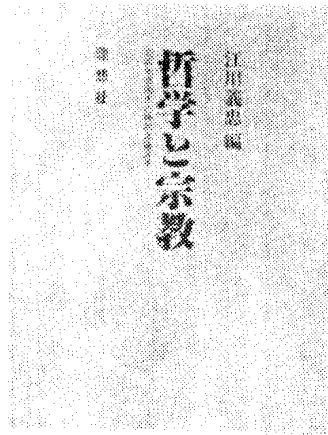


江川義忠編

『哲学と宗教』

——菅谷正貫先生古稀記念論文集——

一九八三年十一月発行、理想社  
A5判 四一〇ページ、六、五〇〇円



本論文集は、あとがきに記されているように、菅谷正貫先生の古稀をお祝いし、先生の立正大学に対する御功績を長く記念するとともに、先生の学恩に深い謝意を表すために計画されたものである。しかし、先生は一昨年秋季彼岸中正の日に、完成を待つことなく不帰の客となられた。

このようなしだいで、本来ならば「追悼論文集」とすべきものであるが、諸般の事情から『菅谷正貫先生古稀記念論文集』として出版されたものである。

正貫先生は、哲学会は言うまでもなく仏教運動を通して仏教関係者とも深い係わりを持ち、また立正大学学長として大学の運営にたずさわりながら、大学人との交流を深めた。このような多方面での先生の御活躍により、その人的つながりは幅広いものとなり、結果的に本論文集は、多くの学会領域からの研究者によって執筆されたものになっている。

では、どのような執筆者によってどのような問題が論じられているか、目次にしたがって概観してみよう。

心身問題と進化の理論 沢田允茂

現代の知的状況の中で、心身問題は従来の伝統的哲学のカテゴリーでは説明できないとして、別の問題設定の発明の必要性示唆。

スピノザにおける政治と宗教 渡辺義晴

スピノザの「神学政治論」を手掛りに、従来の観点のみなおし、更には単純な、啓蒙主義的無神論者でなく、汎神論者として研究する意義の示唆。

昭和という時代 石関敬三

一九三〇年代から今日に至るまでの時代——それはとり

もなおさず、島六郎（正貫先生）の生きた時代―はど  
ういう時代であったかという本質的精神の分析と概  
観。

現代における宗教と社会の一考察 白土みどり

危機的状況である現代社会と宗教の係わりを中心とし  
た分析及び次代文明の平和的創出への考察。

高齢化社会と生きがい 山下富美代

現代社会の生きがいの分析とありかたの考察。

命題の本性について 崎山勝啓

ウイトゲンシュエタインの「論理哲学論考」における命  
題についての考察。

反知性と現代 手川誠士郎

現代人に「ルサンティマン」を投影しての現代人論  
考。

マルクスと宗教批判 岩淵慶一

エンゲルスのマルクス解釈の批判的検討のうち、宗教  
批判とマルクスの思想との関係についてのエンゲルス  
の解釈の妥当性の問題の考察。

ベンヤミンの憂鬱 清水多吉

ヴァルター・ベンヤミンの「フランツ・カフカ論」を  
通してのベンヤミンの思想性及び問題点の考察。

トマス・アクイナスの認識論 江川義忠

トマス・アクイナスの認識論について、「神学大全」  
を中心としての概観。

日蓮の宗教における三位一体性 茂田井教亨

三位一体（釈尊、法華経、日蓮の一体）の思想を通し  
ての日蓮の宗教思想の考察。

六波羅蜜考 片沢泰寛

法華経を抛り所とした倫理学試論。

ラダックにおけるチベット仏教の形成者 矢崎正見

一六世紀末から一七世紀中葉にかけての、ラダックに  
君臨したセンゲナムゲの行跡を追尾しラダックにおけ  
るチベット仏教形成の一端とそこでの形成者の実態並  
びに特殊性の検討。

『春日権現験記絵』詞書考 高木豊

『春日権現験記絵』詞書の成立についての考察。

近代知識人と法華経 渡辺宝陽

高山樗牛と宮沢賢治をめぐって、近代知識人にとって  
の信仰と社会そして人生についての考察。

法華経の神話学 沼義昭

法華経の神話学的考察。

（井上隆二）